

## 事業主体

福島大学

## 調査研究名

南相馬市における継続的な課題発見・解決型調査「むらの大学」

## 調査研究の概要

- 1) 避難指示解除後の小高区における移住人口の減少と高齢化、およびそれに伴う地域コミュニティの再編
- 2) 小高区復興の行政施策に対する住民ニーズの複雑さ
- 3) 小高区における営農再開の困難と風評被害
- 4) 小高区における歴史・文化の継承と発信に関する課題

## 実施内容

5月	調査学生の選定、事前調査
6月8日	南相馬市小高区にて訪問調査(大富、小谷、駅前など)
6月～8月	事前調査及び訪問調査先の選定・依頼
9月18日～21日	南相馬市小高区にて訪問調査「生活・コミュニティ」「農業」「歴史・文化」の3班に分かれ、住民を対象とする聞き取りとフィールドワーク
10月～12月	課題分析および解決策の考案・検証 必要に応じ、追加の訪問調査を班ごとに実施

### ※主な班ごとの訪問

10月26日	台風19号ボランティア
11月10日	農業かけはし班調査
11月16日	サケ班調査、いちばん星ボランティア
11月17日	ゆるスポーツ大会
12月1日	マルシェ大試食会、サケ班調査
12月3日	小高4小・田植え踊り
12月7日	サンイベント開催、復興大学訪問・調査
1月17日	現地成果報告会の実施(南相馬市小高区・浮舟文化会館)地域課題解決プランの発表
2月～3月	学生・教員振り返り、次年度の活動への課題整理

## 調査研究期間

平成31年4月1日～令和2年2月20日

## 南相馬市の課題

調査研究により

- 1) 小高4小では様々な支援を行っているが、子供たちの主体性が課題。
- 2) 住民・行政とも「新しい小高」を目指しているが、住民は近い、行政は遠い未来を考えている。
- 3) 福島県農産物の価格低下は風評被害の問題のみではなく市場の飽和性、商品の代替性が強く関係している。小高区において営農再開した小農家の多くは、経営面のみではなく「生きがいとしての農業」を求めている。
- 4) 小高区において子供たちや若い世代が、村上田植え踊りなど地域の伝統芸能に触れる機会が減少している。という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になった。

## 課題解決の提言

課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされる。

- 1) 「子供たちが主体的に何かをやる」ことへのサポートを通じ、自立を目指す環境整備を行う。
- 2) 住民・行政の対話を増やし協働に力点を置いた施策を進める。
- 3) 農作物を高く売るため、小高米と小高に関心のある人をつなぐ「飽和していない市場の創出」や、「代替性の低い商品化」などに取り組み活性化していく。小高交流センター内に新設された「小高マルシェ」を中心に試食イベントなどを実施。生産者と消費者の間に「顔が見える関係」をさらに活性化し、農家のモチベーションアップにつなげる。
- 4) 伝統芸能の手作り絵本などを作成し、子供たちやその親世代に地域の伝統芸能に触れる機会をさらに増加させる。